

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

激動する時代に「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」をモットーに、

学び続け、変わり続けることの出来る生徒を育てる学校をめざします！

本校は、「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」を合言葉に、前例にとらわれず「ゼロベース」で考え、失敗を恐れず、失敗してもくじけず、失敗から学んで何度でも立ち上がり、勇気をもって前を向いて一步を踏み出すことのできる生徒を育てたい、育ててほしい、と願っています。また、「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、論理的思考力・批判的思考力等の21世紀型スキルを身につけます。

① 「知的好奇心のかたまり」 ② 「ゼロベース思考」 ③ 「失敗を恐れないチャレンジャー」

こんな生徒を育てたい、こんな生徒に育ててほしいと願い、学び続け、変わり続ける全教職員が全力でクリエイティブにサポートします！

2 中期的目標

1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現

(1) 全教職員が授業改善に取り組み、アクティブラーニングを積極的に実践して、授業力を磨くとともに、生徒の主体的・能動的に学ぶ姿勢を引き出すことでジェネリック・スキル（汎用的能力）を育成し、進路実現をサポートする。

ア 総合的な探究（学習）の時間を用い、新しいアクティブラーニング型授業「探究」を開発実践し、21世紀型スキルであるジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。

イ 教員内に定着してきたICT活用を、今後情報委員会を中心としてICTの有効な活用方法について研究する。また、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法を研究していく。

ウ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。

※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いに切磋琢磨して授業の質を高める。

授業見学後の意見交換シートを作成し令和4年度には授業見学率100%（H29=67.3%、H30=84.6%、R1=81.6%）を達成する。

※授業アンケート評価全項目の平均値3.20を維持する。（H29=3.16、H30=3.20、R1=3.20）

※学力生活実態調査の学力指標GTZ（H29.9月：Aゾーン0.1%、Bゾーン36.0%、Cゾーン44.5%、Dゾーン19.4%、H30.9月：Aゾーン1.5%、Bゾーン41.0%、Cゾーン43.4%、Dゾーン14.1%、R1.9月：Aゾーン1.9%、Bゾーン36.3%、Cゾーン50.0%、Dゾーン11.7%）を、令和4年度には国公立難関大学を狙えるAゾーンを3%に、中堅校を狙えるBゾーンを40%に、Dゾーンを10%以下にする。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校（国公立・関関同立）、私立中堅校の合格者（H29=13人、112人、H30=9人、98人、R1=13人、125人）を、令和4年度に各15人超、120人超とする。

(2) 「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。

ア 図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組を強化していく。

※図書館の利用者（H29=20.4人、H30=21.0人、R1=21.0人）を令和4年度には25人とする。

※高校ビブリオ西日本大会（R1：6大会連続出場）、中高生ビブリオバトル大阪大会（R1：5大会連続出場）毎年連続出場更新し令和4年度までに大会決勝に出場することをめざす。

イ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモショナルリテラシー）やメディアリテラシーの育成

※教員向け各種研修を実施し（毎年3回以上）、また生徒向けにも実施する。

(3) 修学旅行の充実

ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。

※令和4年度に実施後のアンケートすべての項目の最上位評価の平均75%以上（H30=71.3%、R1=75.7%）を維持する。

(4) 国際感覚を身につける。

ア オーストラリア語学研修の実施を継続する。

※継続的实施および発表の機会の充実をめざす。

2 安心安全な学校づくり

(1) 安心安全な学園環境を整える

ア 学校付近の厳しい交通環境の中、通学路における自転車事故ゼロをめざす。

(2) 教育相談体制、サポートの充実

ア SSW（スクール・ソーシャルワーカー）とSC（スクールカウンセラー）を活用して支援態勢をサポートする。

イ 障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。

※本校独自にSSWを招聘し、定期的にケース会議を開催（H29=6回、H30=10回、R1=10回）。制度変更により本年度から令和4年度までSSWの参加しているケース会議年6回実施。

(3) 地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化

ア 地域に支持される学校をめざす。
吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ほか各クラブや、音楽科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒に、さまざまに活躍できる場を提供する。

イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR 活動、委員会活動、部活動をサポートする。

※令和4年度に学校教育自己診断(生徒)「学校行事等が自主的に運営されている」(H29=82.5%、H30=83.9%、R1=81.2%)「部活動は活発である」(H29=82.3%、H30=84.7%、R1=84.2%)を肯定値85%にする。

ウ 学校説明会を充実させる。

※令和4年度に実施後のアンケートの最上位評価85%(H29=79.7%、H30=81.7%、R1=81.9%)にする。

3 教職員の働き方改革

(1) 時間外勤務の削減

ア 月の時間外勤務80時間超の延べ人数を削減する。令和元年度より減少させる。(H29=89人、H30=62人、R1=60人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>もともと高水準で推移しているものを除き肯定値は上昇している。</p> <p>生徒では「図書館活用」が上昇してきているものの(H30=22.7、R1=24.5)、肯定値26.7%と低めである。探究の時間を通してビブリオバトルも実施しているので、書物への興味は少し上がっていると考えている。これらの活動が図書館活用につながるように、総務部と探究委員会で検討する。</p> <p>保護者では「進路指導の充実」の肯定値が69.3%と70%を割ってしまった。本校の特徴である進路の多様性を考えると、保護者の要求するところは考えているところより高い。進路指導部が主体となり、多様なニーズに応える情報提供をできるように取り組む。</p> <p>教職員では、懸案事項であった「授業方法についての検討」(76.3%)や「授業相互見学について」(97.3%)の肯定値が上がっている。校則遵守指導を教職員で協力していることの肯定値(86.5%)は上がっているが、「基本的習慣の確立」「生徒が校則を守っている」の2項目の肯定値(78.4%、81.1%)が下がっている。6月はじまりの影響もあるかと思われる。来年度4月から生徒指導部を中心として指導の浸透を図る。</p>	<p>第1回(7月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実現できない取組みがあると思う。代替となる取組みを考えてはどうか。 ・自転車の交通安全指導を強化してほしい。 <p>第2回(12月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車の交通安全コンテストの取組みや与謝野晶子青春の短歌大会の入賞など良い意味で目立った取組みがなされている。今後もこのような取組みを継続してほしい。 <p>第3回(2月20日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、中止される取組みが多い中、工夫をして代替を考え頑張って実施したと評価している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現	(1) 授業改善し、基礎学力の定着・進路実現を支援 ア 授業アンケートおよび ICT 活用による授業改善を推進 イ 生徒のデータによる状況把握と学習支援プランの作成と実践	(1) ア・全教員が他の実験授業を観察、助言しあい、授業見学シートを用いて成果検証を行い、教科会議等を通して改善点について全教員で情報を共有する(9～1月)。 ・第1回の授業アンケート(7月)で個人のシートを用い各教員が課題を把握し、教科会議で教科シートの検討し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ・進路指導部主導で学力指標 GTZ の分析をし、また、教科データにより各教科の弱点を各教科で把握する。進路指導部が成績を分析し、学年と連携をして進路実現をサポートしていく。	(1) ア・授業アンケート(12月)全項目の平均 3.20 を維持する。(R1=3.20) ・学校教育自己診断 ICT 関連項目(生徒)の肯定値 R2 ≥ 90%をめざす。(R1=89.1%) イ・教育産業の学力指標 GTZ (R1.9月:Aゾーン=1.9%,Bゾーン=36.3%,Cゾーン=50.0%,Dゾーン=11.7%)で、国公立難関大学を狙える Aゾーンを R2=2%に。中堅校を狙える Bゾーン以上を R2=42%に。Dゾーンを R2 ≤ 10%に。 ・難関校(国公立・関関同立 R1=13人)と私立中堅校の合格者 R1=125人を、それぞれ R2=13人,112人以上とする。 ・現役大学進学率 (R1=46.2%)、R2=55%をめざす。 ・進路希望実現率 R1=61.5%を、R2=61.5%以上に。	(1) ア・授業アンケートの全項目平均 3.27 (◎) 授業力向上の取組みに加え、生徒と職員の関係性が、向上していると考えられる。 ・ICT活用 90.5% (○) 職員に ICT 活用が定着している。 イ Aゾーン 2.1% Bゾーン 48.1% Cゾーン 41.0% Dゾーン 8.9% (◎) 特に Bゾーンが増加している。学習時間も増えつつあり、今後もこの数値を継続していきたい。 ・大学合格実績 国公立・関関同立 12名 私立中堅校 118名 6月始まりと夏休み短縮の影響でスタートが遅く、講習の時間も十分に取れなかった影響もあつてか思うように数字が伸びなかった。 (△) ・進学率 50.8% (△) 看護医療系への進路希望増加を考え来年度単年度目標を下方修正し 50%にする。 ・希望進路実現度 79.9% 昨年度の数値を上回ることができた。(◎) (2) ア・23.1人 (○) 探究で図書館を積極的に活用し、本の貸出冊数も増加した。来年度は目標が、より明確になる図書貸出数に変更する。 ・目標としていたビブリオバトル大会自体が中止となった。代替として探究の時間に1年生全員にビブリオバトルに取り組みさせた。(○) イ・SCを活用した傾聴力向上の研修等、年3回実施した。(○) (3) ア 75.2% (○) 急な方面及び日程変更があったが、満足度を維持する事が出来た。 (4) ア コロナ流行の影響で止むを得ず中止した。来年度も中止予定である。これに代わる取り組みを国際交流委員会で検討中 (一)	
	(2) 「言葉のチカラ(言語技術)」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。	(2) ア・探究の授業での図書館の活用を促進し、図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組を強化していく。 イ・ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等)やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施。	(2) ア・図書室利用者数、R2 ≥ 23人を目標とする。(R1=21.0人) ・高校ビブリオ西日本大会(7年連続)、中高生ビブリオバトル大阪大会(6年連続)出場。 イ・教員向け研修、年3回以上実施(R1=4回)	(2) ア・図書室利用者数、R2 ≥ 23人を目標とする。(R1=21.0人) ・高校ビブリオ西日本大会(7年連続)、中高生ビブリオバトル大阪大会(6年連続)出場。 イ・教員向け研修、年3回以上実施(R1=4回)	(2) ア・23.1人 (○) 探究で図書館を積極的に活用し、本の貸出冊数も増加した。来年度は目標が、より明確になる図書貸出数に変更する。 ・目標としていたビブリオバトル大会自体が中止となった。代替として探究の時間に1年生全員にビブリオバトルに取り組みさせた。(○) イ・SCを活用した傾聴力向上の研修等、年3回実施した。(○) (3) ア 75.2% (○) 急な方面及び日程変更があったが、満足度を維持する事が出来た。 (4) ア コロナ流行の影響で止むを得ず中止した。来年度も中止予定である。これに代わる取り組みを国際交流委員会で検討中 (一)
	(3) 修学旅行の充実	(3) ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。	(3) ア 修学旅行アンケート評価すべての項目の最上位評価の平均 75%以上維持する。(R1=75.7%)	(3) ア 修学旅行アンケート評価すべての項目の最上位評価の平均 75%以上維持する。(R1=75.7%)	(3) ア 75.2% (○) 急な方面及び日程変更があったが、満足度を維持する事が出来た。 (4) ア コロナ流行の影響で止むを得ず中止した。来年度も中止予定である。これに代わる取り組みを国際交流委員会で検討中 (一)
	(4) 国際感覚を身につける。	(4) ア オーストラリア語学研修の実施を継続する。大学との連携による事前学習を実施し、事後の文化祭での発表を通して内容の充実を図る。	(4) ア 語学研修実施の継続	(4) ア 語学研修実施の継続	(4) ア コロナ流行の影響で止むを得ず中止した。来年度も中止予定である。これに代わる取り組みを国際交流委員会で検討中 (一)

府立金岡高等学校

2 安心安全な学校づくりと環境整備	<p>(1) 安全安心な学園環境を整える ア 通学路など学園内外での安心安全の確保</p> <p>(2) 教育相談体制、サポートの充実 ア SSW のケース会議で教育相談支援</p> <p>(3) 地域に支持される学校 ア 生徒が主役の学校づくり イ 学校説明会の充実</p>	<p>(1) ア・警察と連携し交通安全指導を実施し1年生の通学指導を強化し通学路での事故を無くす。</p> <p>(2) ア・SSW中心のケース会議を年6回開催して学級運営や学習支援をバックアップする。 また、1(2)とも関連させて相談しやすい雰囲気を作るためSCによる職員の傾聴力向上のための研修も実施する。</p> <p>(3) ア・「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。 イ・学校説明会の内容の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・自転車通学の事故ゼロをめざす。 当面の目標として、警察との連携による登校指導などの実施や探究の時間の活用し交通安全を考えることを通してR2の数値をR1より減少させる。 (R1=事故総数39件)</p> <p>(2) ア・SSWケース会議を年6回で開催。 (R1=10回) 緊急時には臨時でSSWを招聘しケース会議を開催。 SCによる研修の実施</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断「生徒会等の諸行事において、自主的に運営されている。」生徒の肯定的回答85%以上にする。(R1=81.2%) イ・来校者アンケートの「内容は参考になりましたか」の最上位肯定値85%以上をめざす。(R1=81.9%)</p>	<p>(1) ア・事故総数37件(○) ほぼ横ばい状態。 交通安全に対する意識を高めるため、警察と連携をし、標語コンテストも参加した。 最優秀賞も含め6名が入賞した。今後も継続して交通安全に対する意識を高めさせていきたい。</p> <p>(2) ケース会議を年6回実施。(○) 外部との連携等大変役に立っている。</p> <p>(3) ア 81.9%(△) 昨年度より肯定値が上昇したが、目標には達しなかった。ただ、行事が中止になる中、生徒にすべて考えさせるのは難しかった。</p> <p>イ 67.1%(△) 部活動体験が無かったせいもあり、最上位評価は低かった。その一方で肯定値98.5%と例年は90%前後だったことを考えると実施した成果があったと思われる。</p>
3 教職員の働き方改革	<p>(1) 時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務80時間超の延べ人数を削減する。令和元年度より減少させる。</p>	<p>(1) ア・ノークラブデー・ノー残業デーを徹底することにより時間外勤務を削減する。</p>	<p>(1) ア・令和2年度4月～2月に月80時間超の時間外勤務の人数を昨年度より減少させる(R1=60人)</p>	<p>(1) ア 54人(○) 4月5月は出勤自体が少なく7月8月は例年より出勤機会が多く増加した。全体としては減少傾向にある。</p>